

2017年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Alina Reva (ユジノサハリンスク、ロシア)

平和首長会議 御中

私たちが「HIROSHIMA and PEACE」に参加し、貴団体の講義に出席してからまだ間もありませんが、感謝を申し上げるとともに、いくつか御提案したいことがあります。

核兵器が巨大な悪であるということが無関心な人には理解できないのだろうと思います。ですから、私たちは出来る限り多くの場で核軍縮について語るべきです。そのために、私の住む都市で、多くの人にその問題や、核兵器が人々の生命に与える影響や被害について知ってもらうという計画を立てています。

私は普段サハリン国立総合大学の学生として暮らしていますが、既に教師としても働き始めています。また、私が卒業した学校の先生たちや、今そこで勉強している学生たちとの協力も続けています。私が実施したいと考えているのは、私が広島で得た知識を私の学校の第一体育館で教えることから始めるという計画です。既に先生たちとの面談は済ませていて、彼らは私が授業を行うのを楽しみにしてくれています。授業は3つの言語で行うつもりでいます。10~12歳の児童にはロシア語で、13~15歳の学生には英語で、最年長の学生にはフランス語で教える予定です。外国語の勉強になり、新しい語彙を知ることができるのは、学生たちのためになるでしょう。そして何よりも大切なのは、1945年に起きた悲劇や、核拡散を防ぐ方法を知ってもらうことができるという点です。この授業の最も重要な側面は、私たちの未来は私たち自身にかかっている、私たちも彼らも共に最善を尽くし、核兵器のない世界を作り上げなければならないのだということ、子どもたちに説明することなのです。

既に述べたように、私は生徒会の一員です。生徒会は学生たちの将来に対する責任があります。彼らは原子力が存在する状況がどれほど恐ろしいものか全く理解していないかもしれません。ですから、彼らが正確に知らないであろう事実について説明し、核兵器廃絶に向けた問題の解決方法を見つけ出してもらうのが私の狙いです。私一人では大きなことを成せないのは明らかです。しかし私の考えを支持してくれる人たちを見つけることができれば、核兵器のない世界へ向けた戦いも容易になるでしょう。

私は貴団体からいただいた『広島の復興』という漫画を読んで深い感銘を受けました。こうした本は、国や文化、距離をも越える完璧なコミュニケーション手段だと思います。特に若い世代に関して言えば、時に言葉で彼らに何かを伝えるのは困難なこともあります。しかし『広島の復興』や『はだしのゲン』などの本を用いれば、時代や世代を越え、様々な人たちに容易に伝えられるのです。ロシア、特に私の住む都市でも、こうした題材の漫画を見つけることができればと思います。ロシアは日本に最も近い隣人ですから、私たちは日本の皆さんのことをとても気にかけていますし、助けになれることはないか考えているのです。

原爆の記憶を忘れずにいるために、特別な日を定めるべきだと思います。広島と長崎の悲劇は日本だけの悲劇ではありません。世界の悲劇となるべきです。多くの人たちがこの原爆投下によって命を落としました。重傷を負い、亡くなりました。生き残った被爆者たちの心には今も深い穴が残っています。爆発により、住む家や両親、友人、恋人、そして幸せな未来を失ったのですから。誰もがそのことを忘れるべきではありません。この特別な日は、8月でなくても、全世界共通の日付になれば素晴らしい

いと思います。核兵器廃絶の日を作るのです。

結論として、核兵器や核の惨劇そのものについて多くの有益な情報を得ることのできた素晴らしい機会でした。教授や被爆者、学生の皆さんから学んだ全てのものにとっても衝撃を受けました。そして私は今、この知識を次の世代に伝えていく責任を感じています。